



## ある少女の選択 ~ 18歳「いのち」のメール ~

2011年07月31日 | 科学



今朝は「いのち」ということについてアップしようと思います。私たちは身体を持ちいのちがあって生きています。

生かされている一方でそのいのちはあるとき自分の手元にあることに気がつきます。

そして動揺の中で自分のいのちを絶つ人、行きたいのだけれど生きられない人、そんな「いのち」の話です。

昨年の暮にNHKクローズアップ現代で、



という番組が放送されました。

NHKクローズアップ現代の番組解説には次のように書かれています。

「腎臓の「人工透析」30万人。口ではなくチューブで胃から栄養をとる「胃ろう（経管栄養）」40万人。そして、人工呼吸器の使用者3万人。「延命治療」の発達で、重い病気や障害があっても、生きられる命が増えている。しかしその一方、「延命治療」は必ずしも患者の「生」を豊かなものにしていないのではないかという疑問や葛藤が、患者や家族・医師たちの間に広がりがつつある。田嶋華子さん（享年18）は、8歳で心臓移植。さらに15歳で人工呼吸器を装着し、声も失った。「これ以上の「延命治療」は受けたくない」と家族と葛藤を繰り返した華子さん。自宅療養を選び、「人工透析」を拒否して、9月、肺炎をこじらせて亡くなった。華子さんの闘病を1年にわたって記録。「延命」とは何か。「生きる」こととは何か。問いを繰り返しながら亡くなった華子さんと、その葛藤を見つめた家族・医師たちを通じて、医療の進歩が投げかける問いと向き合いたい。」

NHKクローズアップ現代ある少女の選択  
～“延命”生と死のはざままで～

[http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content\\_id=2977](http://cgi4.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail.cgi?content_id=2977)

透析治療を受ければさらに何年間は父母のもとで生きられたでしょうが彼女はそうしませんでした。

父の透析治療を受けたらという言葉に、耳を傾けることなく自分の生きる道を選択・・・今、安易に「耳を傾けなかった」という言葉をつけましたが、これは耳を傾けたからこそ、その選択も彼女の生きるという選択の内だったように思えます。

「延命」という言葉にこの番組をおくと少々、視点がずれるように思います。延命とは「ためを思う」医療行為には違いはないのですが、

享受されるべき主人公は誰なのか、

そこにある命の延長は主人公にとってどういうものなのか、

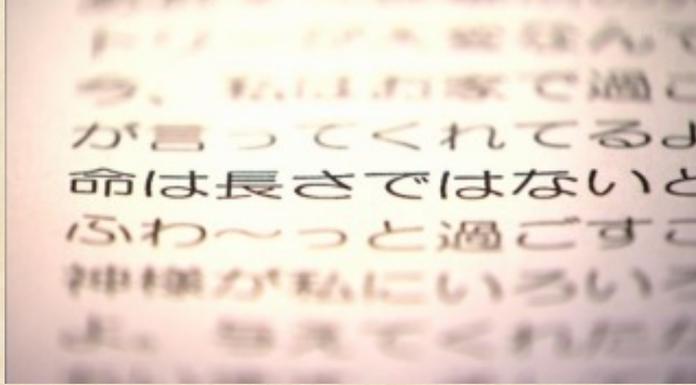
家族のために生きなさい、他人がそのようにとやかく言える次元にない、というのが一番の思考結果のように思います。

生まれ変わりの輪廻転生もあるし、神や天使の住む天国もあるし、極楽浄土もある。

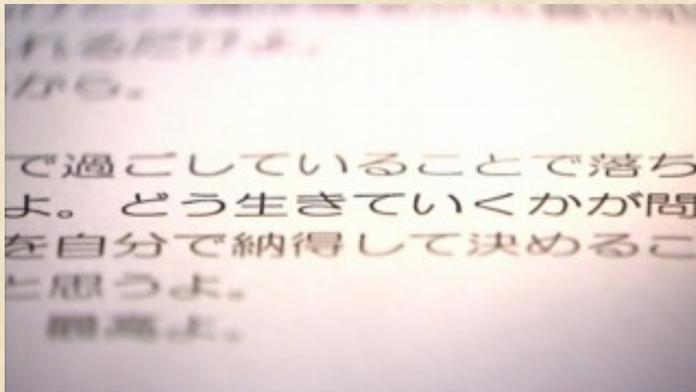
この世にあっては花になり、風になりその存在を伝えることもある。



死は怖くありませんか？ こころがあるからこわくないのです。



命は長さではないと思うのよ。どう生きて行くかが問題だと思う。



大学で心理学を教えてきた野口明子さんとの間で交わされたメールの言葉、野口さんは7歳の子を亡くしています。命について心理学で語ろうという内容ではありません。

「生きる」ということについて多くを教えられ・・・そこには学問も宗教もありません。





娘さんお命日頃に必ず咲く朝顔、そこには微笑む朝顔の花がありました。

こころはつながっている。

野口さんと野口さんと7歳で死んだ娘さんとの関係に、華子さんはこの言葉を残していません。

父親の田嶋喜八郎は華子さんに透析を希望します。華子さんと一日も長く一緒にいたいから……。

主治医の前田浩利先生を介して、華子さんは、

これからも私らしく生きたいの……

と答え、前田先生が、



番組では、野口さんが最後に華子さんから教えられたことについて次のように語り、華子さんメールでの言葉が紹介されました。

【野口明子】

華子さんあなたを見ていると、こんなにも体と精神が別々に働くことがあるのだなあ～と驚いています。

だってあなたの精神活動は健康な肉体をもっている人よりもはるかに活発に毅然として凛として働いているのですもの。

頑張るとか頑張らない、諦めたとか諦めないを超えないもの。ただ華子さんらしく生きるということが、ピッタリなのですね。

大きな自然の流れの中に、身をまかせるといことなのでしょうね。

【田嶋華子】

野口先生、神様が私にいろいろのな病気を与えたことは、恨んだりしてないよ。

与えてくれたから、たくさんのいい人たちと出逢えたもの。

先生は私に「頑張れ」とは言わなかった。

「フワッと乗りこえましょうね～」、と言ってくれました。

こころがつながっているから、大丈夫なのですよ。

きょうも、あしたも最後まで、フワッと楽しくね。

<以上>

こころのつながり、生きるということ、身体と精神・・・

生と死の間にある深淵なる命の営み。

漂うようにフワッと生きる。

大きく深呼吸する。これは誰にでも当りまえにできる。それが今あることの悦びなのかも知れませんが。